



# 浮羽中学校通信

自ら気づき、判断し、行動できる生徒の育成  
【重点目標】～自信をもって何事にも取り組む生徒の育成～

うきは市立浮羽中学校  
第 12 号

令和7年12月23日 発行  
文責 校長 竹並俊和

## 2025年の節目に ～「次の一步」への助走を始める冬に～

カレンダーも最後の一枚となりました。2025年は、初の女性総理誕生や気候変動など、時代の転換点を肌で感じる一年でした。また、大谷翔平選手の「限界を決めずに挑戦し続ける姿」には、私たちが大きな勇気をもらいました。浮羽中の生徒たちも、この二学期、文化祭への取組などをはじめ、素晴らしい「挑戦」を見せました。三者面談を終え、進路へ向け「ラストスパート」に入る三年生。生徒会選挙を経て、学校を牽引するリーダーへと歩み出した二年生。そして三学期を終えれば、いよいよ後輩を迎える「先輩」となる一年生。三学期は「四月からのスタートに向けた助走期間」です。この冬休み、しっかりと地面を踏みしめ、自分の現在地を確認してほしいと願っています。幕末の思想家、吉田松陰は「夢なき者に計画なし、計画なき者に実行なし」と説きました。一方で、イチロー選手は「小さなことを積み重ね、夢に近づくことができれば、それは『目標』になる」と語っています。遠くにある夢を、明日から取り組める「目標」へと落とし込む。この冬休み、自分を静かに振り返り、新たな「小さな一步」を見出してください。最後になりましたが、本年も本校の教育活動への温かいご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。どうぞ、良いお年をお迎えください。

## ハワイ・ミリラニ中学校との国際交流会

### ～宇宙飛行士エリソン・オニヅカ氏が繋いだ絆～

11月21日（金）、ハワイ州のミリラニ中学校から18名の生徒さんと副校長先生、2名の引率の先生方、総勢21名が本校を訪問され、大変貴重な国際交流の機会を持つことができました。交流会は、本校の体育館で2年生の生徒全員が参加して行われました。この体育館は、1983年に宇宙飛行士エリソン・ジョージ・オニヅカ氏が来校し、「夢に向かって努力しよう。きっと夢はかなえられる。」という力強いメッセージを当時の浮羽中学校の生徒たちに送ってくださった、まさに「夢のスタートライン」とも言える場所です。オニヅカ氏の父方の祖父母は、このうきは市浮羽町のご出身であり、この遠く離れた福岡とハワイを、オニヅカ氏の存在が強く結びつけてくれました。ミリラニ中学校では、オニヅカ氏について熱心に学習されており、今回の交流はオニヅカ氏のルーツを辿る旅でもあったのです。歓迎の挨拶では、オニヅカ氏が繋いでくれたこの縁に深い感動を覚えるとともに、生徒たちには「言葉や文化の違いを超えて、心を開き、友情を見つけてほしい」と伝えました。短い時間でしたが、本校生徒はハワイの豊かな文化や温かい「アロハ・スピリット」を肌で感じ、ミリラニ中学校の生徒さんには日本の伝統やうきは市の文化に触れていただく、実りある一日となりました。今回の交流を通して、私たちは改めて一つの重要な事実にも光を当てることができました。それは、ハワイで偉業を成し遂げた3名の日系人の方々、すなわち、ダニエル・K・イノウエ氏（元上院議員・下院議員）、ジョージ・アリヨシ氏（元ハワイ州知事）、エリソン・ジョージ・オニヅカ氏（宇宙飛行士）が、実は皆、福岡県にルーツを持っているという繋がりです。イノウエ氏の父方のご両親・祖父母は八女市（旧上陽町）出身、アリヨシ氏の父親は豊前市出身、そして、オニヅカ氏の父方の祖父母がうきは市浮羽町出身です。遠いハワイで夢を育み、世界に羽ばたいた偉人たちのルーツが、身近なこの福岡の地にあるということは、私たち浮羽中学校の生徒にとっても、大きな誇りと希望となります。オニヅカ氏のメッセージ通り、彼のルーツの地で交流した生徒たちが、この経験を糧に「希望に満ちた未来を見つめ、ともに学び、成長」してくれることを心より願っています。オニヅカ氏は1986年1月28日のスペースシャトル「チャレンジャー号」の事故で殉職されましたが、浮羽町高見には、その功績を称え「エリソンオニヅカ橋」があります。彼の魂は、今もこの浮羽の地に、そして私たちの心の中に生き続けていると感じます。



【 37年前来校したときの様子 】



【 小グループに分かれ自己紹介 】



【 ボッチャを楽しむ 】



【 水墨画を一緒に 】

## 「うきは市の未来」を拓く若き力 ～財政から学ぶ持続可能なまちづくり～

12月4日、3年生101名を対象に、うきは市の財政課の方々をお招きして「市の財政について」のまちづくり出前講座を開催しました。これは、3年生の総合的な学習の時間での取り組みです。講座では、市のふるさと納税額が近隣自治体と比較して非常に高い水準にあることや、その寄付金が教育や福祉など多岐にわたる分野で具体的にどう活用されているかを詳しく学びました。生徒たちは、億単位の大きなお金が動く仕組みに圧倒されながらも、自分たちの生活が多くの税金によって支えられていることを実感したようです。この学びを受け、生徒たちは「うきは市が持続可能な街になるための取組」についてレポートにまとめ、財政課へ届けました。そこには、子育て支援や高齢者の就労環境の整備、観光客の誘致、さらには選挙への参加の大切さなど、本市の未来を真剣に案じる多彩なアイデアが綴られていました。中学生の柔軟な発想と、郷土を愛する熱い思い。それこそが、本市をより良く変えていく確かな原動力になると確信しています。



【 出前講座の様子音楽室 】

## 「自分たちの学校を、自分たちで創る」

### ～伝統のバトンを次世代へ繋ぐ「生徒会の日」～

本校では先日、「生徒会の日」全校集会を開催いたしました。インフルエンザ感染予防のため、ZOOMによるオンライン集会となりました。「生徒会の日」とは、今から二十七年前、当時の生徒たちが「頭髪自由化」をはじめとする校則の見直しに取り組み、自分たちの手でより良い学校を築き上げようと奔走した歴史を記念する日です。自由を勝ち取るだけでなく、それに伴う責任を果たし、落ち着いた校風を何年もかけて築き上げてきた先輩たちの努力。その積み重ねが、今の生徒たちの穏やかな学校生活へと繋がっています。



【ZOOMによる生徒会室からのオンライン配信の様子】

集会では、まず現生徒会が今年度の活動を総括しました。各委員長からは、成果だけでなく「来年度への課題」も率直に語られ、続く新執行部の挨拶からは、伝統を引き継ぎつつも自分たちの色を出していこうという力強い決意が感じられました。正に、目に見えない「伝統のバトン」が、三年生から次代を担う一・二年生へと手渡された瞬間でした。私は生徒たちに、生徒会活動の本質は「当事者意識」であると伝えました。学校をより良くするために自ら考え、行動する姿勢は、将来、社会をより良くするために主体的に関わる力へと直結します。「自分たちの学校は自分たちで創る」この言葉を胸に、新しい生徒会がどのような未来を創造してくれるのか。そして全校生徒がそれをどう支え、共に歩んでいくのか。新体制への力強い一歩を、保護者の皆様もぜひ温かく見守っていただければ幸いです。

## 新春を迎える伝統の門松

12月21日（日）、本校の冬の風物詩である「門松づくり」が行われました。PTAのOBで構成される「とうちゃん倶楽部」の皆様をはじめ、現役PTAの皆様、野球部の生徒諸君、そして教職員が力を合わせ、立派な門松を完成させました。この門松づくりは、「生徒たちの輝かしい新年の門出を祝いたい」という熱い思いから始まり、二十数年という長きにわたって大切に継承されてきた本校の誇れる伝統です。冷え込みの厳しい中、朝早くから作業にあたってくださった皆様に、心より感謝申し上げます。現在、正門と東門には、手作りの温もりと力強さを感じさせる門松が真っ直ぐに立っています。地域や保護者の皆様に支えられていることを改めて実感し、身の引き締まる思いです。来校の際は、ぜひご覧ください。



【立派にできた門松と記念撮影】



【野球部のみなさんも大活躍】



【土台をしっかりと作っています】